

はじめに

本学は、歴史のまち、博士のまち、あるいは水の都と言われた大垣市に誕生して、開学50年を越えた総合女子短期大学であり、現在、全国に2万6900人以上の卒業生がいます。

恵まれた自然環境下で、徳・知・体の3本柱からなる教育を受けるために、基礎的な教育を身につけながら、それぞれの学科で専門的な学問・知識・技術を学んでいます。

この横と縦の方向を持った教育によって、建学の精神に謳われているような自律性を持った品性のある女性教育を行っています。

学 章



昭和44年 開学時に制定

学章の中心には、本学の所在地である
大垣市の市章をあしらっています。

シンボルマーク



登録第4778449号

平成3年

創立20周年を記念して制定

大垣(Ogaki)のOを楕円形に見立て、小楕円形から大楕円形へと向かう時、創造と自己の拡大を、また逆の形の関係に、エネルギーを凝縮することで得られる集中力と充実を表現したものです。

〈制作〉デザイン美術科(現デザイン美術学科)元教授
松本 英三氏

キャラクター(みづきー® 登録第4780026号)



登録第4778448号

平成13年

創立30周年を記念して制定

「瑞樹」及び「水の都大垣」から水の雫、若木の葉を表現し、名称も本学を象徴する「瑞樹」からイメージした、シンプルでかわいらしいキャラクターです。学内公募にて、デザイン美術科(現デザイン美術学科)佐久間宏美さんの作品が選定されました。

「瑞樹(みづき)」について

「瑞樹(みづき)」は、本学では「みづきの郷」「みづき祭(大学祭)」「みづき会」「みづきー」「みづきホール」等よく使われています。では、「瑞樹」とは何かといえば、みずみずしい若木を意味しており、みなさん(学生)を象徴的に表した言葉です。辞書によると「瑞木」となっていますが、「木=樹」ですから象徴的な言葉、美しい歌の言葉として「瑞樹」を採用したのです。大学の歌にありますように、「・・瑞樹立つ 美し学び舎・・・」「みずみずしい若木達がすくすくと育っている美しい短大」というイメージです。すばらしい将来・未来がある、みずみずしいみなさん(学生)が、夢を胸に抱いて学び、成長して巣立っていくように願いをこめています。

大垣女子短期大学の歌

国枝 稔 作詞
高木東六 作曲

Andantino tenerezza

ゆくみたすのにゆひたとけりしたひつろわのさかおぜみとなおごるのそきらぞのい
まもほとらめにてあわすかをたよぶあわすかをたよぶにそほだんちのすもぐなな
かるひこりさざすしそのかなきおとおもががききみまづこきとあたり
うまぞしみまはなてびなやしやくもそりしなみきてひひとらみきはすもすえま
てんたもろきとはもるいおのさちめたがえんわかなかひのわまかな
きびひやのわまかなきびひやのさそちあらの
div. *mf* あ

ゆく水の ゆたけし広野
風透る 空のまほらに
あすを呼ぶ 日本の中なか
光さす その名大垣
瑞樹立つ 美し学び舎
くもりなき 瞳はもえて
たまきはる いのち讃えん
若き日の幸

あらた世に 独り立つ業
おみなごの 競いもとめて
若竹の そだち直ぐなる
こころざし 高き友垣
まことあり 望みはてなし
いそしみて 拓き進まん
もろともに 治め磨かん
学びやの園

沿革

昭和42年 2月	大垣女子短期大学設立期成同盟会結成
昭和43年 1月	大垣女子短期大学設立準備委員会発足
12月	管理棟A号館・教室B号館その他第一期工事竣工
昭和44年 2月	学校法人大垣女子短期大学設立認可
	大垣女子短期大学設置認可
幼稚園教諭 2級普通免許及び保母養成施設として認可	
4月	大垣女子短期大学幼児教育科第一部開設。第1回入学式を挙行
昭和45年 4月	幼児教育科第三部開設 教室D号館並びに学生ホール竣工
10月	講堂E号館竣工
昭和46年 3月	第1回卒業式を挙行
4月	音楽科・美術科開設 学生寮竣工
昭和49年 3月	教室G号館竣工
4月	保健科第一部開設
昭和51年 3月	保健科第一部開設
4月	学生寮増築竣工
昭和52年 4月	幼児教育科第三部定員増 (200名⇒350名)
保健科第三部開設	
昭和54年 2月	創立10周年
3月	図書館・研究室棟竣工(現 教室H号館)
昭和55年12月	体育館K号館竣工
昭和62年 4月	学科名称変更 現 歯科衛生科第一部・第三部 (旧 保健科第一部・第三部)
平成元年 2月	創立20周年記念、20周年記念館竣工
平成 2年 2月	幼児音楽棟F号館竣工
4月	学科名称変更 現 デザイン美術科 (旧 美術科)
12月	管理棟・教室A号館竣工
平成 3年 4月	国際教養科開設
平成 4年 4月	音楽科・デザイン美術科期間付定員増 (至 平成12年 3月)
平成 6年 4月	幼児教育科第三部定員減 (350名⇒200名)
平成11年 2月	創立30周年
4月	歯科衛生科第一部定員増 (50名⇒80名)
平成12年 3月	国際教養科・歯科衛生科第三部廃止
4月	デザイン美術科定員増 (50名⇒80名)
平成13年 4月	幼児教育科第三部定員減 (200名⇒100名)
平成14年 4月	学科名称変更 現 歯科衛生科 (旧 歯科衛生科第一部)
7月	幼児教育科第三部定員減 (100名⇒50名)
10月	学内外の全面禁煙宣言
平成15年 3月	環境国際規格ISO14001の認証取得
4月	G・H号館耐震工事完了
9月	歯科衛生科定員増 収容定員160名⇒240名)(修業年限を 3 年に変更)
平成16年 4月	D・E号館耐震工事完了
9月	学科名称変更 現 音楽総合科 (旧 音楽科) B号館耐震補強立替竣工
K号館耐震工事完了	
平成17年 3月	幼児教育科第三部廃止
4月	学科名称変更 現 幼児教育科 (旧 幼児教育科第一部)
平成18年 3月	(財)短期大学基準協会による第三者評価適格認定
平成19年 4月	幼児教育科定員増 (収容定員 200名⇒300名) (修業年限を 3 年に変更)
7月	大垣市と地域包括協定の締結
平成20年 4月	学生会館みづき耐震工事完了
歯科衛生科定員減 (80名⇒50名)	
10月	20周年記念館をC号館(20周年記念館)と名称変更
平成21年 2月	創立40周年
4月	文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)に選定
9月	総合教育センター設置
10月	講堂大規模改修 (みづきホールと名称変更)
平成22年 4月	環境国際規格ISO14001の認証登録取り下げ
平成25年 3月	幼児教育科定員減 (100名⇒50名) デザイン美術科定員減 (80名⇒50名)
4月	(一財)短期大学基準協会による第三者評価適格認定
平成27年 4月	看護学科開設 (80名)・I号館竣工
	学科名称変更 現 幼児教育学科 旧 幼児教育科
	デザイン美術学科 デザイン美術科
	音楽総合学科 音楽総合科
	歯科衛生学科 歯科衛生科
平成29年 1月	学校法人大垣女子短期大学と学校法人岐阜経済大学との法人合併
3月	学校法人大垣女子短期大学解散
4月	学校法人大垣総合学園設立
平成31年 2月	創立50周年
令和 2年 3月	(一財)短期大学基準協会による認証評価適格認定
令和 3年 3月	看護学科廃止

建学の精神

中庸を旨とし 勤労を尊び
職業人としての総合能力を有する
人間性豊かな人材の養成

解説

私立学校の生命である公共性と並ぶ独自性は、「建学の精神」によって存在の意義が発揮されるものです。

本学は、本学独自の「建学の精神」に基づく教育を通じて実社会及び実生活の役に立つ人間性豊かな人材の養成を行うものですから、「建学の精神」は本学創立以来の基本的な教育理念です。

本学の建学の精神の中核を成すものは「中庸」です。その意味は、「不偏・不易」すなわち、偏ることなく、変わることなく、常に調和がとれている人の在り方を目指すものです。この奥深い意義は、世界の人類史上優れた偉人によって明らかにされています。「中庸」に続く「勤労の尊さ」、「総合能力」、「豊かな人間性」は、全て「中庸」と密接なかかわりを持ちながら、それぞれ独自の価値観に輝いています。例えば、「勤労を尊ぶ」なかから人間の叡智も開花し、文化・文明も今日に至っていると言えるからです。この様に、高い理想を示す本学の「建学の精神」の学風と伝統の中で教育が行われ、学生が勉学にいそしむことに誇りをもつことこそ本学の希望であり、喜びでもあります。

創立記念日 2月8日

昭和44年2月8日に学校法人大垣女子短期大学の創立認可及び大垣女子短期大学幼児教育科の創設認可を受けたことを記念して制定されました。

学長の言葉

大垣女子短期大学は1969年開学以降、56年の歴史を刻んでいる短期大学です。幼児教育科第一部(現幼児教育学科)から始まり、1971年音楽科(現音楽総合学科)、美術科(現デザイン美術学科)、1974年保健科(現歯科衛生学科)と5年で4学科を有する総合短期大学となりました。開学以降、時代の流れに沿った教育改革などを施し、北は北海道から南は九州、沖縄に至るまで、26,900人以上の卒業生が全国で活躍しています。

現在の学科及びコース構成は、教育系分野で3年制の幼児教育学科、芸術系分野で2年制のデザイン美術学科(マンガ・コミックイラストコース、ゲーム・CGコース、メディアデザインコース)と音楽総合学科(管打楽器リペアコース、ウインドアンサンブルコース、ウインド・リペアコース、ピアノコース、電子オルガンコース、音楽療法コース)、保健衛生系分野で3年制の歯科衛生学科と、3分野4学科を有する全国でも数少ない総合短期大学です。

各学科の特徴として、幼児教育学科は3年制である点が挙げられます。3年次には、週のうち2日は終日保育現場で実務経験を導入しており、就職後の自信に繋がることでしょう。また、幼稚園教諭、保育士資格を含め、認定療育士など11の資格取得が可能な点も大きな特徴のひとつです。デザイン美術学科は、近年若者に人気のコースを揃え、各コース長年専門分野で活躍されている教員陣で、きめ細やかな指導を行っています。また、全てのコースの下支えとなるデッサンやクロッキー、絵画にも力を注いでいます。音楽総合学科は、大学、短期大学では唯一の管打楽器リペアコース、ウインド・リペアコースがあり、充実した設備の中、リペア技術者を目指す学生が全国から集まっています。また、ピアノコース、電子オルガンコース、ウインドアンサンブルコースの学生は、指定の授業の単位を修得すれば音楽療法士の資格も取得可能です。歯科衛生学科は、グレードの高いモニター付きユニットチェアを導入の他、マネキン実習机を1人につき1台設置し、歯科医療現場と同レベルの環境で基礎から着実に技術を身に着けることができます。

このように本学は、資格取得を目指す学科をはじめ、知識、技術を身につける学科など4学科で構成されており、卒業後の進路に直結する学びの場であります。卒業時「大変だった」「やっと終わった」であったとしても、卒業後希望職に就き何年か経過した時に「短大での学びがあったから今の自分がある」と振り返られるような充実した2年間、または3年間であることを期待します。

大垣女子短期大学 学長 服部篤典

幼児教育学科

令和5年に「こども基本法」の施行とともに「こども家庭庁」が創設、「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みが進められています。また、令和6年4月には、改正児童福祉法が施行され、保育現場や子ども・子育て家庭をとりまく状況は大きな転換期を迎えることとなりました。そして今後は、人口の減少、核家族化、生活のスタイルの変化の中、未来を支える子どもたちを社会全体で大切に育てることが必要となります。

その中心的な役割を担っていくのは保育者であり、益々の活躍が期待されています。

本学の幼児教育学科は、半世紀以上の歴史を持ち実践力のある保育者養成を目指して、平成19年度より3年制の教育課程を組んでいます。1年次には、保育者、そして1人の大人になるための基礎を学び、2年次は、保育・教育と何かをさまざまな形で学ぶことで夢に近づきます。3年次には、約6か月間の現場の実務を体験する保育実務研修を通して、社会に通用する実践力を修得していきます。保育実務研修は本学3年制課程の一番の特色であり、長期的に子どもと関わり、園の季節に応じた行事や保育の実際を経験します。国で定められて実習期間だけでは見えてこなかった保育実践の様々な課題を大学に持ち帰り、学生主体で話し合って次の実践に活かしていく学びです。既習の知識や技能を高めることはもちろん、自分の保育者観を育て、社会人としての基盤を固め確かな保育実践力を伸ばしていきます。この他にも保育入門演習、保育ボランティア、子育てサロン「ぷっぷあ」への参画、レクリエーション、パラスポーツのボランティア等多くの現場体験を重視した学びを通して、本物のチカラを身につけていきます。

また、幼稚園教諭二種免許状や保育士資格取得はもちろんですが、3年制だから学べる特色ある α の学びとして、「特別支援教育」「音楽」「造形」「運動」と多岐にわたる分野の専修科目を用意しています。そして、認定療育士、音楽療法士（2種）、准学校心理士、初級パラスポーツ指導員、レクリエーション・インストラクター、認定ベビーシッター等の資格も取得が可能です。自分の得意分野を保育実践で活かせることは、自分らしく輝けることであり、子どもにとって魅力的であこがれる存在となることでしょう。

幼児期は、様々な直接体験・あそびを通して周囲の人やもの・社会のあり様を学び、人としての土台を築く重要な時期であります。その場面に関わることができる保育者は、喜びとともに重い責任を背負うことになります。しかし、子どもの笑顔を毎日見ることができ、とても幸せを感じができる仕事でもあります。「保育者になりたい！」という夢に向かって、幼児教育・保育に関する専門知識だけでなく、授業や様々な経験を通して感性をみがき、社会人基礎力を身につけ自己有能感を高めていってほしいと思います。また、仲間と共に学生生活を楽しく過ごし、時には切磋琢磨しながら学び合い、充実した3年間となることを願っています。

デザイン美術学科

デザイン美術学科紹介の冒頭、最初にお伝えしたいことがあります。稀代の画家、パウル・クレーのことばです。「カタチと造形とは違う」です。似たことばに感じるでしょうが、2つの違いは重要です。

カタチとは、この世にすでに存在するものです。マル、サンカク、シカク（○△□）のように、それを耳にしたとき、自然と脳裏に浮かび上がってくれる形状たちです。既知の存在です。

対する造形とは、未知なる形状を創り出すことです。言い換えるならば、造形とは、これまで誰も見たこともなかった存在の追求です。本デザイン美術学科で学修する者たちには、この「造形」を極めてもらいます。

本学科には3コースがあります。各表現方法、作品が求めるもの、また身に着けるべき技術の内容は異なります。しかし共通しているものがあります。誰も見たこともなかった存在を追い求めていく姿勢です。

3コースの特徴は以下になります。

- 1) マンガ・コミックイラストコース：読者・オーディエンス（観る側）たちに勇気と希望、夢を与えることを目的とする創作の内、最も身近にある存在です。学修者は、魅力あふれるキャラクタ、心ときめかせる世界観、そして感動を与えるストーリー&プロットを「造形」していきます。
- 2) ゲーム・CGコース：ゲームとは体験できる仮想現実です。その中で繰り広げられる感動の世界とはどうあるべきか、キャラクタや世界観、そして、プレイヤーがゲームの中で対面する仮想と現実との臨場感（緊張感）を、如何にして「造形」していくかが求められます。
- 3) メディアデザインコース：社会の中に生じる様々な課題。それらをデザインと情報（メディア）との力で解決していくのが本コースの本懐です。本コースでは、マーケティングやユニバーサルデザイン等で実績のある、様々なフレームワーク（思考の道具）を利用し、解決策を「造形」していきます。

デザインや美術を設置する機関は増え続け、本学のように学位（短期大学士）を取得できる大学に限ってみても総数は200近くにも上ります。まるで専門科目が一般教養科目に追いつく勢いです。さらにまた生成AIの進化は著しく、画像生成や動画生成は、今や一般人でも容易に制作可能になってきています。

この変化著しい環境の中で、異種の存在を「横断的」に取り入れることは重要です。何故ならば、異種同志が刺激し合い、調和し合うところにこそ、「未知」が隠されているからです。

学生と教員との距離が密接な少人数制の本学科では、異種の存在（3コース）を「横断的」に取り込むことが容易です。つまり本学科の最も大きな長所の一つとは、3コースを上手に刺激させ調和させながら、未知を「造形」できることなのです。デザイン美術学科新入生の皆さんには、この長所を最大限に利用した「造形」を期待いたします。

音楽総合学科

音楽総合学科には、「ピアノコース」、「電子オルガンコース」、「ウインドアンサンブルコース」、「管打楽器リペアコース」、「音楽療法コース」、「ウインド・リペアコース」の6コースがあります。

「ピアノコース」は、音楽的知識や音楽基礎力を身につけ、音楽を総合的に学びながら、ピアノ演奏の確かなテクニックや豊かな表現力など、多彩な演奏力を養います。実技レッスンやグレード対策など、一人ひとりに合わせた充実したマンツーマン指導を通して、確実に知識や技術を修得し、音楽教室講師をはじめ楽器店など音楽関連や、個々の希望する進路の実現を目指します。

「電子オルガンコース」は、電子オルガンならではの臨場感あふれる音楽表現を目指し、電子オルガン演奏に必要なテクニックや知識、多様な演奏スタイルを学び、豊かなサウンド・表現力を追求します。ピアノコース同様、2年間の充実したマンツーマン指導によって、音楽教室講師や楽器店スタッフ、その他の進路に向けて幅広く学修します。

「ウインドアンサンブルコース」は、吹奏楽に関する専門的な知識や演奏技術を身につけ、数多くの依頼演奏や定期演奏会における演奏活動によって確かな実践力を磨きます。また、音楽総合特講などの授業を通じて、公務員音楽隊をはじめ、楽器店や一般職に就くための、総合的な知識やスキルを学びます。

「管打楽器リペアコース」は、管楽器、打楽器の修理を学ぶコースですが、各楽器のリペア技術を学ぶ「リペア基礎・応用」、歴史や知識を学ぶ「管楽器・業界研究」、各楽器の奏法を学ぶ「楽器奏法」など、リペアに必要な内容を多方面から学びます。リペア技術の見極めや楽器店等での接客対応という実践的な要素を学び、成績優秀者は、ヤマハ(株)主催の技術評価を受験することができます。

「音楽療法コース」では、福祉現場への就職を念頭に置き、関連職種と良好なコミュニケーションを取ることができ、対象となる方の生活の質の向上に貢献できる音楽療法士の育成を目指しています。高齢化社会が到来している現在、音楽療法士のニーズは高まっています。本学近隣の福祉医療施設における実践の機会を数多く設け、実際の現場から得られる学びを大切にしています。

「ウインド・リペアコース」は、1年次にウインドアンサンブルコースの演奏系必修授業と管打楽器リペアコースの技術系必修授業を履修し、演奏スキルと修理技術スキルを身につけるコースです。1年次はじっくりと両コースを学び、2年次にはそれぞれのコースでさらなる向上を図ります。

2年次には、各々の希望進路に応じてのコース分けを行い、就職に特化したカリキュラムを編成しています。「各コース専門職」、「総合楽器店」、「一般職」を柱とし、各コースの特性を活かした細かなカリキュラムにより、卒業後を見据えた教育を行います。

更に希望者は（除 管打楽器リペアコース、ウインド・リペアコース）、全国音楽療法士養成協議会認定の「音楽療法士（2種）」を取得することができます。

音楽を土台に、各コース・他学科との交流の場が増え、親睦も深まり、総合的な知識、偏らない中庸の精神を基に、将来の夢に向かって第一歩を踏み出していくきます。皆さんにとって、自分の道を決定していく大切な2年間でもあり、教員も皆さんの目標達成に向け最良の教育が行えるよう努めています。

また、各種演奏会や学外でのボランティア活動など活躍の場は沢山ありますので、個々の積極的な取り組みを期待します。

歯科衛生学科

昭和23年（1948年）に歯科衛生士法が制定されたことで歯科衛生士の資格が定められ、その業務内容が規定されて本邦での歯科衛生士養成の歴史が始まりました。そして昭和49年（1974年）、歯科衛生士の養成を目的とした本学が開設されました。

本学では、専門的知識と技術とともに豊かな教養と人間性を備えた人材の育成を行なっています。加えて、さまざまな専門職と連携・協力し、あらゆる医療・介護ニーズに対応できる歯科衛生士の育成を目指しています。具体的には、「全身に関わる医学的知識をもった歯科衛生士の育成」、「口腔の健康を支援できる歯科衛生士の育成」「コミュニケーション能力を備えた歯科衛生士の育成」「地域貢献ができる歯科衛生士の育成」の四項目を柱にすえた教育を行なっています。

現在、全国に183余の歯科衛生士養成校がありますが、本学のような短期大学は16校、大学は14校のみで、ほとんどが専門学校（153校）です。本学では、歯科衛生士国家試験資格とともに、国際的に通用する短期大学士（歯科衛生学）という学位を取得することができます。

日本は超高齢社会のトップランナーであるため、健康寿命の延伸を図り、活力のある社会を維持することが喫緊の課題となっています。また近年、口腔の健康増進が老年病を予防し、高齢者の生活の質（QOL）を維持するために重要であることがわかってきました。そのようなことから、歯科衛生士の活躍の場は地域住民への歯科保健指導や高齢者・要介護者の支援等まで拡がっています。口腔の健康とともに全身の健康をサポートする医療職として、歯科衛生士の果たす役割は今後益々大きくなっています。

本学のカリキュラムでは、臨床医学に関する講義を積極的に実施しています。加えて、看護や介護の知識を習得することで、他職種とのチーム医療が行える、また看護や介護の場において的確な口腔管理が行える歯科衛生士の養成を目指しています。特に、2年次後期からの臨床・臨地実習では、すべての年代の有病者に対応できるよう、ライフステージ別の実習内容を構成しています。胎児期・幼児期の保護者を対象とした実習、幼年期・少年期を対象とした生涯にわたる健康な口腔の基盤作り、青年期・壮年期における口腔の健康維持・増進のための実習、老年期・衰退期（要介護期）の口腔の管理等、多面的・総合的な実習を行なっています。本実習には、岐阜県や大垣市はもとより、近隣の市町村の歯科医師会の協力のもと、歯科医院での研修を実施しています。加えて、総合病院の歯科・口腔外科、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、保健センター、学校などでの実習を取り入れ、総合的な臨床能力を育成しています。

本学では、歯科保健・医療・福祉の総合的知識を有し、超高齢社会で活躍する口腔ケアスペシャリストの育成を目指しています。同時に、自立して生きていくための人間力と生涯にわたり学び続ける力を育みます。自らが主体的に学ぶ心を大切に、勉学の楽しさと時には厳しさを体得しながら、ビオトープのある自然あふれたキャンパスで充実した学生生活を送ってほしいと思います。